

2025年度 シラバス（助産学専攻科）

助産学概論

更新日：2025/02/12 12:48:40

開講年度	2025	学期	前期	授業コード	2025090901	科目ナンバリング	M1Z9Z01R
担当教員	湯本 敦子, 水嶋 文雄						
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連							
DP1	○		DP2	○		DP3	○
配当	学部/学科	専攻科 専攻科 助産学専攻科				配当時期	—
	単位	1	授業の方法	講義	曜日/時限	—	必修・選択
	備考						
アクティブラーニングの実施				×			

実務経験のある教員等による授業科目

東洋医学に関しては、NPO法人東洋医学研究所の所長であり、長年、漢方治療・鍼灸治療および後輩指導に携わってきた医師が講義を担当する。

授業概要

少子高齢化社会の要請に応え、次世代を育成し、ひとの生涯を通じた性と生殖の健康に焦点をあてて活動する、専門職としての助産師の意義、専門性、役割と責務を学ぶ。助産における基本概念、法的責任・業務、助産師と倫理、母子保健及び助産の変遷と現状、産育文化、及び諸外国を含む助産師基礎教育・キャリア教育について学修する。さらに助産ケアに生かす東洋医学の基礎知識を学ぶ。

到達目標

1	助産および助産師の定義、及び助産師の業務、身分、役割と責任について説明できる。
2	助産師に求められる能力（コンピテンシー）は何かを説明できる。
3	リプロダクティブヘルス/ライツの定義および課題について説明できる。
4	助産師のケアに関わる基本的概念や理論について説明できる。
5	国内外の母子保健を概観し、動向と課題を述べることができる。
6	助産師教育の現状、助産師が活動する場、国内外の助産師に関連する団体について説明できる。
7	助産師の倫理的感応力の重要性を述べることができる。
8	助産ケアにおける多様な文化の理解の必要性を述べることができる。
9	助産ケアにおける東洋医学の基礎とその活用について述べることができる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	助産師が行うケア1 イントロダクション	講義	湯本敦子
2	助産師が行うケア2 助産師の業務と役割・助産師のコンピテンシー／リプロダクティブヘルスと助産ケア	講義	湯本敦子
3	助産ケアを支える概念・理論	講義	湯本敦子
4	母子保健の動向と課題	講義	湯本敦子
5	助産師教育、国際化と助産師、助産師と倫理	講義	湯本敦子
6	産育の歴史と文化	講義	湯本敦子
7	助産ケアと東洋医学1	講義	水嶋文雄
8	助産ケアと東洋医学2	講義	水嶋文雄

授業外学習時間

事前・事後学習：教科書該当箇所・配布された関連資料をよく読むこと。(1時間)
課題学習：課題レポートのテーマに従い、積極的に文献や書籍などを手に取り、参考にしながら、自分の考えをまとめること。(4時間)

テキスト・参考書・参考文献

<テキスト>
工藤美子. 助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論・母子保健. 日本看護協会出版会.
我部山キヨ子. 助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学. 医学書院.
<参考文献>
福井トシ子, 井本寛子. 助産師業務要覧 第4版 I 基礎編. 日本看護協会出版会.
＊その他、適宜、授業内で紹介する

成績評価の方法・基準

課題レポート：初回授業時に提示する
＊レポート作成では、文献等のコピーのみでは評価しない。必ず自分の考えを自分の言葉でまとめること。

課題に対するフィードバック

課程修了時に返却する。

オフィスアワー

授業終了時に質問を受け付ける

あるいは研究室（5号館3階301）在室時の時間で調整する。希望がある場合は要事前連絡。

a-yumoto@saku.ac.jp

その他履修上の留意事項等

助産師を取り巻く環境は変化していきます。助産師としての期待される役割、義務、責任は何か、考え続けましょう。

アンテナを張り、女性、子ども、母子、家族に関する多くの課題や問題に積極的な関心を持ち、関心のあるテーマに対して、主体的に学習していきましょう。

*本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

周産期医学Ⅰ（生殖の基礎科学）

更新日：2025/02/14 09:39:30

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090902		科目ナンバリング*	M1Z9Z02R	
担当教員	中田 覚子, 木村 薫, 塩谷 優太									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1				DP2	○		DP3			
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期	－	
	単位	1	授業の方法		講義	曜日/時限	－	必修・選択		必修
	備考									
アクティブラーニングの実施					×					

実務経験のある教員等による授業科目

地域周産期母子医療センターで周産期医療に携わっている産科医師が講義を行う。

授業概要

助産学の基礎科学として、男女生殖器の形態・機能の特性、性の分化と発達、女性の正常な性周期、妊娠の成立と維持、胎児の成長発達、さらに母子免疫、遺伝医学の基礎について学修する。

到達目標

1	リプロダクションに関する形態・機能的特性について説明できる。
2	女性の性周期に関わる視床下部－下垂体下垂体－卵巢機能について説明できる。
3	乳房の構造と乳汁分泌の仕組みについて説明できる。
4	遺伝の仕組みと遺伝疾患について説明できる。
5	母子の免疫機能について説明できる。
6	女性のライフサイクル (思春期・成熟期・更年期) に起こる婦人科的疾患について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	性分化と発達	講義	塩谷優太
2	性と生殖に関する解剖と生理	講義	塩谷優太
3	生殖に関わる形態の特性 ：男女生殖器の形態機能	講義	塩谷優太
4	間脳・下垂体機能と卵巢機能	講義	塩谷優太
5	女性生殖器疾患と健康課題 1	講義	塩谷優太
6	女性生殖器疾患と健康課題 2	講義	塩谷優太
7	母子と物理化学的環境・薬物・嗜好品 遺伝と遺伝疾患・周産期の遺伝医療 母子と免疫	講義	木村薫
8	性行動と性機能	講義	木村薫

授業外学習時間

毎回の予習・復習を習慣づけること。(各回1時間程度)
：解剖生理を含む母性看護領域における基礎知識、および成人看護領域における女性生殖器疾患について十分に復習した上で授業に臨むこと。

テキスト・参考書・参考文献

<テキスト>
我部山キヨ子編. 助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学. 医学書院.
綾部琢哉, 板倉敦夫編. 標準産科婦人科学. 医学書院.

成績評価の方法・基準

筆記試験 100%

課題に対するフィードバック

定期試験後に解答の解説を行う。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

その他履修上の留意事項等

授業の進行は、学習進度に伴い変更がある。助産学の基礎知識であり、実践するにあたり、身に付けておかななくてはならない科目である。
*本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

周産期医学Ⅱ（妊娠・分娩・産褥）

更新日：2025/02/14 09:54:36

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090903		科目ナンバリング*	M1Z9Z03Z		
担当教員	小口 治, 中田 寛子										
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連											
DP1					DP2	○		DP3			
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科						配当時期	－	
	単位	2	授業の方法		講義	曜日/時限		－	必修・選択		
	備考										
アクティブラーニングの実施						×					

実務経験のある教員等による授業科目

地域周産期母子医療センターで、長年、周産期医療に携わっている産科医師が講義を行う。

授業概要

助産学に必要な産科学の知識として、妊娠期、分娩期、産褥期における母体の生理及び異常、合併症の病態と診断・治療、及び産科手術について学ぶ。
また、母子に関する薬剤について学修する。

到達目標

1	妊娠の成立過程と維持機構について説明できる。
2	胎児の発育、性の分化と発達のプロセス、胎盤機能について説明できる。
3	母子の免疫機能について説明できる。
4	妊娠・分娩期・授乳期における母子と薬剤の影響について説明できる。
5	妊娠期の異常の診断とハイリスク妊娠の医学的管理を説明できる。
6	分娩期の異常の病態生理と病態生理に基づく医学的管理を説明できる。
7	周産期における医療機器を用いた診断方法の目的、意義、方法を説明できる。
8	産科手術について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	妊娠の成立 妊娠の維持機構	講義	小口治
2	妊娠による母体の変化 ：生殖器の変化・全身の変化	講義	小口治
3	胎児の発育および臓器の成熟と器官形成期 胎児付属物の構造と機能	講義	小口治
4	妊娠期における異常の医学的管理 1	講義	小口治
5	妊娠期における異常の医学的管理 2	講義	小口治
6	妊娠期における異常の医学的管理 3	講義	小口治
7	分娩期における異常の医学的管理 1	講義	小口治
8	分娩期における異常の医学的管理 2	講義	小口治
9	分娩期における異常の医学的管理 3	講義	小口治
10	分娩期における異常の医学的管理 4	講義	小口治
11	産褥期における異常の医学的管理	講義	小口治
12	産科手術および産科的医療処置 1	講義／演習	小口治
13	産科手術および産科的医療処置 2	講義／演習	小口治
14	周産期の超音波診断・技術 1	講義／演習	小口治
15	周産期の超音波診断・技術 2	講義／演習	小口治

授業外学習時間

毎回の予習・復習を習慣づけること。(各回1時間程度)
：テキストの講義該当部分を事前に熟読の上、講義に参加し、講義資料において不明な点等については、必ずテキスト等で振り返ること。

テキスト・参考書・参考文献

<テキスト>
我部山キヨ子, 武谷雄二編. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期. 医学書院.
我部山キヨ子, 藤井知行編. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期. 医学書院.
小林康江編. 助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア. 日本看護協会出版会.
中井章人. 図説CTGテキスト. メジカルビュー社.

日本産科婦人科学会, 日本産婦人科医会編. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023. 日本産科婦人科学会.
綾部琢哉, 板倉敦夫編. 標準産科婦人科学. 医学書院.

成績評価の方法・基準

筆記試験 100%

課題に対するフィードバック

定期試験後に解答の解説を行う。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

その他履修上の留意事項等

授業の進行は、学習進度に伴い変更がある。近年の助産師国家試験は、周産期における異常時の対応に関する設問が増加傾向にある。常に臨床現場をイメージし、臨床で使える知識を着実に養っていく必要がある。協働する医師から講義を受けることで、他職種が求める助産師像についても考察する機会になることを期待する。
＊本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

周産期医学Ⅲ（新生児）

更新日：2025/02/14 10:05:54

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090904		科目ナンバリング	M1Z9Z04Z	
担当教員	田村 正徳, 中田 覚子									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1					DP2				DP3	
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期		－
	単位	1	授業の方法		講義	曜日/時限	－		必修・選択	必修
	備考									
アクティブラーニングの実施					×					

実務経験のある教員等による授業科目

総合周産期母子医療センターで、長年、周産期医療に携わってきた小児科医師が講義を行う。

授業概要

新生児の子宮外生活への適応過程に関わる診断と診断技術、新生児及び低出生体重児に起こりやすい疾患の病態と診断・治療について学修する。

到達目標

1	新生児の子宮外生活適応過程および成長・成熟について説明できる。
2	新生児の子宮外生活への適応における正常からの逸脱の診断について説明できる。
3	新生児によくみられる症状・状態・疾患について、その病態・診断・治療について説明できる。
4	低出生体重児、早産児の特徴や疾患について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	新生児の診断と管理 1：胎児の発育とその障害	講義	田村正徳
2	新生児の診断と管理 2：成熟新生児の子宮外生活適応過程 （出生直後／生後24時間以内／生後24時間以降）	講義	田村正徳
3	新生児の診断と管理 3：新生児期に見られる正常からの逸脱および異常な症状・状態・疾患	講義	田村正徳
4	新生児の診断と管理 4：新生児期に必要な治療	講義	田村正徳
5	新生児の診断と管理 5：低出生体重児・早産児の特徴	講義	田村正徳
6	新生児の診断と管理 6：低出生体重児・早産児の疾患の病態・診断・管理	講義	田村正徳
7	新生児の診断と管理 7：新生児のフィジカルアセスメント・見逃してはいけない症状	講義	田村正徳
8	新生児の診断と管理 8：新生児医療に関連したガイドライン	講義	田村正徳

授業外学習時間

毎回の予習・復習を習慣づけること。(各回1時間程度)

テキスト・参考書・参考文献

＜テキスト＞
石井邦子, 廣間武彦編. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期. 医学書院.
仁志田博司. 新生児学入門 第6版. 医学書院.
細野茂春監修. 日本版救急蘇生法ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト. メジカルビュー社.

＜参考書＞
日本新生児成育医学会編. 新生児学テキスト. メディカ出版.
小林康江編. 助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊娠褥婦・新生児へのケア. 日本看護協会出版会.

成績評価の方法・基準

筆記試験 100%

課題に対するフィードバック

定期試験後に解答の解説を行う。

オフィスアワー

授業終了時に質問を受け付ける。

その他履修上の留意事項等

出生前・出生時から新生児期を経て乳幼児期へと継続した視点を持つこと、他の職種との共同管理のもとでのケアの実践分野であることを認識すること、そして、新生児を一人の人間として尊重し、大切に思い、ケアすることが重要である。
＊本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

生命科学と倫理

更新日：2025/02/14 11:43:09

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090905		科目ナンバリング	M1Z9Z05R		
担当教員	中田 覚子, 盛岡 正博										
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連											
DP1	○			DP2	○			DP3			
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科						配当時期	－	
	単位	1	授業の方法		講義	曜日/時限		－	必修・選択		必修
	備考										
アクティブラーニングの実施					×						

実務経験のある教員等による授業科目

特別招聘講師：臨床で活動している助産師（遺伝カウンセラー）が実務経験をもとに講義を行う。

授業概要

生殖医療の場における生命倫理の特性、助産に関連する生命倫理のジレンマと課題を理解し、支援と責務について学ぶ。専門職としての倫理的感受性と態度を考察する。

到達目標

1	周産期医療の場で直面する生命倫理に関わる問題について説明できる。
2	様々な倫理的問題に直面する人々への支援の在り方について説明できる。
3	助産師としての職業倫理について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	生命倫理学の歴史的背景	講義	盛岡正博
2	生命誕生と医学の介入1：人工授精、体外受精など	講義	盛岡正博
3	生命の誕生と医学の介入2：再生医療、iPS細胞の可能性と課題	講義	盛岡正博
4	生を絶つことへの医学の介入：人工妊娠中絶、女性の自己決定権、選別出産、減数手術など	講義	盛岡正博
5	インフォームド・コンセント1：医師の裁量権とパターナリズム	講義	盛岡正博
6	インフォームド・コンセント2：脳死と臓器移植	講義	盛岡正博
7	遺伝カウンセラーの役割と活動	講義	特別招聘講師
8	助産師と倫理	講義	中田覚子

授業外学習時間

テーマに従って講義資料を用意するため、受講後に復習をすること。(各回30分程度)

テキスト・参考書・参考文献

＜テキスト＞
塩野寛, 清水恵子. 生命倫理への招待. 南山堂.
我部山キヨ子, 安達久美子編. 助産学講座1 助産学概論. 医学書院.

成績評価の方法・基準

リアクションペーパー (全8回) 40%
最終レポート 60%

課題に対するフィードバック

レポートにはコメントを付して返却する。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

その他履修上の留意事項等

講義時に見聞するニュースなどを資料として用いることもあるため、社会的話題にも関心をもつこと。
＊本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

家族関係発達論

更新日：2025/02/27 11:57:21

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090911		科目ナンバリング	M1Z9Z06Z	
担当教員	竹内 良美									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1		○		DP2		○		DP3		
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期		－
	単位	1	授業の方法		講義	曜日/時限	－		必修・選択	必修
	備考									
アクティブラーニングの実施					○					

実務経験のある教員等による授業科目

特別招聘講師は公認心理士・保健師として総合病院の周産期病棟に勤務している。その実務経験をもとに周産期の女性の心理面について講義する。

授業概要

家族の発達・母性・父性・親性の心理的発達、妊娠・出産・子育て期にある親子・家族の心理的・社会的な特性などを学び、周産期・育児期における健康な親子関係・家族の形成・発達を支援できる基礎的知識を学修する。

到達目標

1	現代の家族の機能・役割・発達課題と法律について述べる事が出来る。
2	様々なライフステージにおける女性・母親の心理的発達と特徴を説明できる。
3	周産期及び子育て期における家族の心理的特徴を理解し、支援を考察できる。
4	周産期及び子育て期における現代社会の課題について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	女性や母子、家族をめぐる心理・社会的な課題	プレゼンテーション	竹内良美
2	女性のライフサイクル各期における心理・社会的課題	講義	竹内良美
3	親子関係・家族関係について	講義	竹内良美
4	母子関係の形成と課題Ⅰ（母性と社会通念、母子関係の形成）	講義	竹内良美
5	母子関係の形成と課題Ⅱ（周産期の女性の心理、発達課題、ストレス）	講義	特別招聘講師
6	父子関係の形成と課題（父親と父性意識、発達課題）	講義	竹内良美
7	現代家族と母性・父性、子育て	講義	竹内良美
8	妊娠・出産・子育てをめぐる心理・社会的課題と支援	講義	竹内良美

授業外学習時間

授業内容にあたる教科書を読んで、事前学習を行う。（約45分）
講義終了後に資料や教科書を読んで、理解を深める。（約45分）

テキスト・参考書・参考文献

〈テキスト〉
我部山キヨ子,菅原ますみ編.助産学講座4基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学.医学書院.
我部山キヨ子,武谷雄二編.助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期.医学書院.
我部山キヨ子,藤井知行編.助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期.医学書院.
日本産婦人科医会編.妊産婦メンタルヘルスマニュアル～産後ケアへの切れ目ない支援に向けて～.中外医学社.

〈参考書〉
ルヴァ・ルービン.母性論,母性の主観的体験.医学書院.
山崎あけみ,原玲子.家族看護学：臨床場面と事例から考える.南江堂.

成績評価の方法・基準

最終レポート 80%
プレゼンテーションでの態度 10%
事後課題レポート 10%

課題に対するフィードバック

レポートに対してコメントを入れて返却する。

オフィスアワー

授業終了後、教室で質問を受けます。
随時、メール、竹内(y-takeuchi@saku.ac.jp)で質問を受けます。

その他履修上の留意事項等

女性の心のありようがライフサイクルとともに大きく変化する過程を把握でき、目の前の対象に寄り添える助産師が求められている。そして、女性のみに限らず、家族の発達へ目を向けてケアができる視点を養っていくことが大切である。同時に自己の心のありようも客観的に俯瞰できる力をつけることを期待する。
＊本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

妊娠期の診断とケア

更新日：2025/02/13 10:20:39

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090912		科目ナンバリング	M2Z9Z01Z	
担当教員	竹内 良美, 中田 覚子, 柳沢 明子									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1				DP2	○		DP3			
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期	－	
	単位	1	授業の方法		演習	曜日/時限	－	必修・選択		必修
	備考									
アクティブラーニングの実施					○					

実務経験のある教員等による授業科目

母子フィジカルサポート研究会で活躍されている助産師が講義の一部を担当する。

授業概要

妊娠期における母体の身体的・心理的・社会的変化、文化的背景、胎児の成長発達、及び妊娠期に起こりやすい異常の診断と管理について理解し、対象を統合的に捉え、妊娠期の母児の健康状態の診断と妊娠経過に応じたケアを実践するための基礎的能力を養う。

到達目標

1	妊娠期における母体の生理的・心理的・社会的変化について説明できる。
2	妊娠期における助産技術の留意点について説明できる。
3	妊娠期における助産技術を安全に実施できる。
4	模擬事例に対して、助産過程を展開できる。
5	妊娠期に必要な健康教育を理解し、計画立案・実施・評価ができる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	助産診断・技術学の概要と妊娠期の助産過程の特徴	講義	中田覚子 竹内良美
2	妊娠期の生理的・心理的・社会的変化と助産ケア1	講義	竹内良美
3	妊娠期の生理的・心理的・社会的変化と助産ケア2 妊娠期の異常と助産ケア	講義	竹内良美
4	妊娠期の助産技術演習1	演習	竹内良美 中田覚子 他
5	妊娠期の助産技術演習2	演習	竹内良美 中田覚子 他
6	事例を用いた妊娠期の助産過程の展開①	演習	竹内良美 中田覚子 他
7	事例を用いた妊娠期の助産過程の展開②	演習	竹内良美 中田覚子 他
8	妊婦のフィジカルアセスメントとケア ＊「産褥期の診断とケア」の褥婦のフィジカルアセスメントとケアと同日開催	講義/演習	柳沢明子
9	妊婦健康診査の演習1	演習	竹内良美 中田覚子 他
10	妊婦健康診査の演習2	演習	竹内良美 中田覚子 他
11	妊娠期の助産過程の展開③	演習	竹内良美 中田覚子 他
12	助産過程の展開に基づく健康教育案の作成	演習	竹内良美 中田覚子 他
13	妊娠期における健康教育の実施1	演習	竹内良美 中田覚子 他
14	妊娠期における健康教育の実施2	演習	竹内良美 中田覚子 他
15	妊娠期の助産技術に関する技術試験	試験	竹内良美 中田覚子 他

授業外学習時間

授業前および授業後にテキスト及び授業資料をよく読み、予習・復習すること。（各回1～2時間程度）
助産過程の展開や健康教育案作成が授業時間内に終わらない場合は時間外に進めること。（各回3～4時間程度）

テキスト・参考書・参考文献

〈テキスト〉

我部山キヨ子,武谷雄二編. 助産学講座6.助産診断・技術学Ⅱ[2]妊娠期.医学書院.
日本産科婦人科学会,日本産婦人科医会編集・監修.産婦人科診療ガイドライン産科編2023.日本産科婦人科学会.
我部山キヨ子,大石時子編.助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版.医学書院.
綾部琢哉,板倉敦夫編.標準産科婦人科学. 医学書院.

〈参考図書〉

北川真理子,内山和美編.今日の助産.マタニティサイクルの助産診断・実践課程.改訂第4版.南江堂.
森恵美編. 助産師基礎教育テキスト2025年版,第4巻妊娠期の診断とケア.日本看護協会出版会.
藤井知行編. 週数別妊婦健診マニュアル第2版.医学書院.
平澤美恵子,村上睦子監修. 写真でわかる助産技術アドバンス.インターメディカ.
日本産婦人科医会編.妊産婦メンタルヘルスケアマニュアル～産後ケアへの切れ目ない支援に向けて～

成績評価の方法・基準

筆記試験 50%
技術試験 30%
助産過程の展開 20%

課題に対するフィードバック

提出された課題に対しては、コメントを付して返却し、授業内で解説する。

オフィスアワー

毎回、授業終了後に教室で質問を受けつける。
その他についてはメールで受け付ける。対面での対応を希望する場合は事前に メールで連絡をする。 (y-takeuchi@saku.ac.jp)

その他履修上の留意事項等

母性看護学をはじめ、基礎看護学や形態機能学などは、必ず復習して臨む。
妊娠期の生理的・心理的・社会的な変化は、その後の分娩期や産褥期にも関連していくということを意識して学んでいく必要がある。
助産師には、母体と児の両方の視点から判断する能力、これまでの経過を考慮するとともに、先を予測しながら対応する助産実践能力が求められる。これらの能力を身につけるために、周産期における対象は1人ではないこと、継続した経過の中で対象をとらえることを意識する必要がある。
＊本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

分娩期の診断とケアⅠ（基礎）

更新日：2025/02/10 10:55:05

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090913		科目ナンバリング	M2Z9Z02Z					
担当教員	中田 覚子, 竹内 良美													
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連														
DP1					DP2		○		DP3					
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科						配当時期		－			
	単位	1	授業の方法		演習		曜日/時限		－		必修・選択		必修	
	備考													
アクティブラーニングの実施							○							

実務経験のある教員等による授業科目

担当教員全員が助産師として周産期医療における十分な臨床経験を持っており、その実務経験を生かした臨地実習指導を行う。

授業概要

正常な分娩プロセスを理解し、分娩進行状態と身体的・心理的・社会的・環境的側面から分娩期における母児の健康状態を診断できる基礎的知識・技術を学修する。

到達目標

1	分娩4要素（産道・娩出物・娩出力・産婦の精神状態）および分娩4要素の関連因子から、分娩機転を説明できる。
2	分娩期のケアで必要となる基礎看護技術を安全に実施できる。
3	分娩期における助産技術とその留意点について説明ができる。
4	分娩期における助産技術を安全に実施できる。
5	分娩介助に必要となる分娩資器材を清潔操作により準備できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	オリエンテーション 分娩の概念	講義	中田覚子
2	分娩期のケアで必要となる基礎看護技術 1	演習	中田覚子 竹内良美 他
3	分娩期のケアで必要となる基礎看護技術 2	演習	中田覚子 竹内良美 他
4	分娩4要素・分娩の機序 1	講義	中田覚子
5	分娩4要素・分娩の機序 2	講義	中田覚子
6	正常分娩の臨床経過と母児に及ぼす影響	講義	中田覚子
7	分娩4要素の診断・内診技術 1	講義	中田覚子
8	分娩4要素の診断・内診技術 2	講義	中田覚子
9	助産ケア技術：内診法、産痛緩和法、呼吸法、分娩体位の工夫、分娩を促進させるケア 1	演習	中田覚子 竹内良美 他
10	助産ケア技術：内診法、産痛緩和法、呼吸法、分娩体位の工夫、分娩を促進させるケア 2	演習	中田覚子 竹内良美 他
11	基礎看護技術試験：VS測定、衛生的手洗い、導尿	試験	中田覚子 竹内良美 他
12	分娩介助技術 1：分娩介助のための環境整備、分娩介助に向けた物品準備①	演習	中田覚子 竹内良美 他
13	分娩介助技術 1：分娩介助のための環境整備、分娩介助に向けた物品準備②	演習	中田覚子 竹内良美 他
14	筆記試験	試験	中田覚子
15	分娩技術試験 1：分娩セットの展開	試験	中田覚子 竹内良美 他

授業外学習時間

毎回の授業において、予習・復習が不可欠となる。（各回1時間）
また、基礎看護技術および分娩技術の習得には、自己練習の時間確保が必要である。自身の学習進度に応じて、他科目の課題等を考慮しながら、自己学習計画を立て、着実に進めること。

テキスト・参考書・参考文献

＜テキスト＞

我部山キヨ子, 藤井知行編. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期. 医学書院.

我部山キヨ子, 大石時子編. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション. 医学書院.

日本産婦人科学会, 日本産婦人科医会編. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2023. 日本産科婦人科学会.
中井章人. 図説CTGテキスト. メジカルビュー社.
綾部琢哉, 板倉教夫編. 標準産科婦人科学. 医学書院.

<参考図書>

北川真理子, 内山和美編. 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程. 南江堂.
町浦美智子編. 助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア. 日本看護協会出版会.
平澤美恵子, 村上睦子監修. 写真でわかる助産技術アドバンス. インターメディカ.
石川紀子, 中川有加編. THE 分娩. メディカ出版.

成績評価の方法・基準

- ①筆記試験(中間試験)
- ②基礎看護技術試験
- ③分娩技術試験 I

※上記①②③の各成績評価において合格基準に達することが必要となる。それぞれの評価基準は別途示す。
※上述①②③のすべての合格をもって、単位修得が認定される。
※合格基準を満たしても、成績により追加課題や追加試験を課すことがある。

課題に対するフィードバック

筆記試験に関しては、全体に対し、フィードバックする。
技術試験に関しては、試験終了後に振り返りの時間を設け、フィードバックする。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。
その他についてはメールで受け付ける。(s-nakata@saku.ac.jp)

その他履修上の留意事項等

本科目は、助産師独自の仕事として最も核となるものである。また、少子化が進む現代日本において、分娩は、女性やそのご家族にとって、これまで以上に貴重なライフイベントとなっている。安全かつ快適に、そして、納得・満足のいく分娩へのサポート役として、助産実践能力を存分に発揮できるよう、積極的に学ぶとともに、学生同士で協力し合いながら切磋琢磨することを期待する。助産実践能力を身につけるためには、授業時間以外に計画的に自己学習・自己練習の時間を確保し、着実に課題をクリアしていく必要がある。

*本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

なお、本科目が単位修得見込みでない場合、「分娩期の診断とケアⅡ（実践）」の試験受験資格を失う。

分娩期の診断とケアⅡ（実践）

更新日：2025/02/10 10:57:51

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090914		科目ナンバリング	M2Z9Z03Z	
担当教員	中田 覚子, 湯本 敦子, 竹内 良美									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1			DP2		○		DP3			
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期	－	
	単位	2	授業の方法		演習	曜日/時限	－	必修・選択	必修	
	備考									
アクティブラーニングの実施					○					

実務経験のある教員等による授業科目

担当教員全員が助産師として周産期医療における十分な臨床経験を持っており、その実務経験を生かした臨地実習指導を行う。

授業概要

分娩助産技術及び正常経過を促進するケア、及び異常を予測し、早期発見とその対応を含む助産ケアを実践できる基礎的技術・臨床判断力を養う。

到達目標

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	助産過程の展開：時期診断、経過診断とは	講義	中田覚子
2	事例を用いた助産過程の展開1：初産婦（入院時）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
3	事例を用いた助産過程の展開1：初産婦（入院時）②	演習	中田覚子 竹内良美 他
4	分娩助産技術1：外陰部消毒、清潔野作成①	演習	中田覚子 竹内良美 他
5	分娩助産技術1：外陰部消毒、清潔野作成②	演習	中田覚子 竹内良美 他
6	事例を用いた助産過程の展開2：初産婦（分娩第1期）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
7	事例を用いた助産過程の展開2：初産婦（分娩第1期）②	演習	中田覚子 竹内良美 他
8	分娩助産技術2：仰臥位分娩における児娩出、胎盤娩出、産道点検①	演習	中田覚子 竹内良美 他
9	分娩助産技術2：仰臥位分娩における児娩出、胎盤娩出、産道点検②	演習	中田覚子 竹内良美 他
10	分娩助産技術3：会陰切開時・吸引分娩・鉗子分娩時の会陰保護、人工破膜、臍帯巻絡解除	演習	中田覚子 竹内良美 他
11	事例を用いた助産過程の展開3：初産婦（分娩第2期）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
12	事例を用いた助産過程の展開3：初産婦（分娩第2期）②	演習	中田覚子 竹内良美 他
13	事例を用いた助産過程の展開4：初産婦（分娩準備の判断）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
14	事例を用いた助産過程の展開4：初産婦（分娩準備の判断）②	演習	中田覚子 竹内良美 他
15	事例を用いた助産過程の展開5：初産婦（分娩直後）	演習	中田覚子 竹内良美 他
16	事例を用いた助産過程の展開6：経産婦（入院から分娩第1期）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
17	事例を用いた助産過程の展開6：経産婦（入院から分娩第1期）②	演習	中田覚子 竹内良美 他
18	シナリオシミュレーション1（入院時の関わり）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
19	シナリオシミュレーション1（入院時の関わり）②	演習	中田覚子 竹内良美 他
20	シナリオシミュレーション2（報告の仕方）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
21	シナリオシミュレーション2（報告の仕方）②	演習	中田覚子

			竹内良美 他
22	シナリオシミュレーション3（分娩第1期の関わり）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
23	シナリオシミュレーション3（分娩第1期の関わり）②	演習	中田覚子 竹内良美 他
24	シナリオシミュレーション4（分娩室入室・分娩準備の判断）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
25	シナリオシミュレーション4（分娩室入室・分娩準備の判断）②	演習	中田覚子 竹内良美 他
26	シナリオシミュレーション5（分娩第2期・外陰部消毒の判断）①	演習	中田覚子 竹内良美 他
27	シナリオシミュレーション5（分娩第2期・外陰部消毒の判断）②	演習	中田覚子 竹内良美 他
28	無痛分娩	講義	中田覚子
29	分娩技術試験Ⅱ（外陰部消毒から分娩介助術、産道点検）	試験	中田覚子 竹内良美 他
30	実習前OSCE（客観的臨床能力試験）	試験	中田覚子 竹内良美 湯本敦子 他

授業外学習時間

毎回の授業において、予習・復習が不可欠となる。（各回1時間）
また、分娩技術の習得には、自己練習の時間確保が必要である。自身の学習進度に応じて、他科目の課題等を考慮しながら、自己学習計画を立て、着実に進めること。
助産過程の展開が授業時間内に終わらない場合は時間外に進めること。（各事例に対して3～4時間程度）
シミュレーション演習に関しては、事前課題・事後課題がある。（各シミュレーション事例に対して30分～1時間程度）

テキスト・参考書・参考文献

＜テキスト＞
我部山キヨ子, 藤井知行編. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期. 医学書院.
我部山キヨ子, 大石時子編. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション. 医学書院.
日本産婦人科学会, 日本産婦人科医会編. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2023. 日本産科婦人科学会.
中井章人. 図説CTGテキスト. メジカルビュー社.
綾部琢哉, 板倉教夫編. 標準産科婦人科学. 医学書院.

＜参考図書＞
北川真理子, 内山和美編. 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程. 南江堂.
町浦美智子編. 助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア. 日本看護協会出版会.
平澤美恵子, 村上睦子監修. 写真でわかる助産技術アドバンス. インターメディカ.
石川紀子, 中川有加編. THE 分娩. メディカ出版.

成績評価の方法・基準

- ①課題レポート（シミュレーション振り返り）
- ②助産過程の展開
- ③分娩技術試験Ⅱ
- ④筆記試験
- ⑤OSCE (客観的臨床能力試験)

※上記①②③④⑤の各成績評価において合格基準に達することが必要となる。それぞれの評価基準は別途示す。
※「分娩期の診断とケアⅠ（基礎）」が単位修得見込みであり、かつ上記①②③④の両方に合格した者が、⑤の受験資格を得ることができる。
※上述①②③④⑤のすべての合格をもって、単位修得が認定される。
※合格基準を満たしても、成績により追加課題や追加試験を課すことがある。

課題に対するフィードバック

提出された課題に関しては、コメントを付して返却し、授業内で解説する。
筆記試験に関しては、全体に対し、フィードバックする。
技術試験に関しては、試験終了後に振り返りの時間を設け、フィードバックする。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。
その他についてはメールで受け付ける。(s-nakata@saku.ac.jp)

その他履修上の留意事項等

本科目は、助産師独自の仕事として最も核となるものである。また、少子化が進む現代日本において、分娩は、女性やそのご家族にとって、これまで以上に貴重なライフイベントとなっている。安全かつ快適に、そして、納得・満足のいく分娩へのサポート役として、助産実践能力を存分に発揮できるよう、積極的に学ぶとともに、学生同士で協力し合いながら切磋琢磨することを期待する。助産実践能力を身につけるためには、授業時間以外に計画的に自己学習・自己練習の時間を確保し、着実に課題をクリアしていく必要がある。
＊本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。
なお、『分娩期の診断とケアⅠ（基礎）』が単位取得見込みでない場合、本科目試験の試験受験資格を失う。

産褥期の診断とケア

更新日：2025/02/10 12:23:02

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090915		科目ナンバリング	M2Z9Z04Z	
担当教員	中田 覚子, 竹内 良美, 黒澤 かおり									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1				DP2	○		DP3			
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期	－	
	単位	1	授業の方法		演習	曜日/時限	－	必修・選択		必修
	備考									
アクティブラーニングの実施					○					

実務経験のある教員等による授業科目

母子フィジカルサポート研究会で活躍されている助産師や、IBCLCの認定資格をもつ助産師、BSケアの研修を修了している助産師が講義の一部を担当する。

授業概要

産褥期における母体の生理的・心理的・社会的変化及び文化的背景を理解し、対象を統合的に捉え、母親の健康状態を診断し、回復過程を促進するケア、及び母乳哺育の確立と育児支援のための診断・技術を実践できるための基礎的能力を養う。

到達目標

1	産褥期における母体の生理的・心理的・社会的変化について説明できる。
2	産褥期における助産技術とその留意点について説明ができる。
3	産褥期における助産技術を安全に実施できる。
4	模擬事例に対して、助産過程を展開できる。
5	産褥期に必要な健康教育を理解し、計画立案・実施・評価ができる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	褥婦に対するフィジカルアセスメントとケア ＊「妊娠期の診断とケア」の妊婦に対するフィジカルアセスメントとケアと同日開講	演習	柳沢明子
2	産褥期の助産診断と助産ケアの特徴	講義	中田覚子
3	産褥期の生理的・心理的・社会的変化と助産ケア 1	講義	中田覚子
4	産褥期の生理的・心理的・社会的変化と助産ケア 2 産褥期の異常と助産ケア	講義	中田覚子
5	母乳育児支援 1：解剖・生理	講義／演習	黒澤かおり
6	母乳育児支援 2：コミュニケーション術	講義／演習	黒澤かおり
7	母乳育児支援3：助産ケアの実際	講義／演習	特別招聘講師
8	産褥期における助産技術	演習	中田覚子 竹内良美 他
9	事例を用いた助産過程の展開 1：産褥 1 日目の初産婦	演習	中田覚子 竹内良美 他
10	事例を用いた助産過程の展開 2：産褥 3 日目の初産婦	演習	中田覚子 竹内良美 他
11	事例を用いた助産過程の展開 3：産褥 5 日目の初産婦	演習	中田覚子 竹内良美 他
12	助産過程の展開に基づく健康教育案の作成	演習	中田覚子 竹内良美 他
13	産褥期における健康教育の実施 1	演習	中田覚子 竹内良美 他
14	産褥期における健康教育の実施 2	演習	中田覚子 竹内良美 他
15	産褥期の助産技術に関する技術試験	試験	中田覚子 竹内良美 他

授業外学習時間

授業前および授業後にテキスト及び授業資料をよく読み、予習・復習をすること。（各回1～2時間程度）
助産過程の展開が授業時間内に終わらない場合は時間外に進めること。（各事例に対して3～4時間程度）

テキスト・参考書・参考文献

＜テキスト＞

我部山キヨ子, 藤井知行編. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期. 医学書院.
我部山キヨ子, 大石時子編. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション. 医学書院.

日本産婦人科学会, 日本産婦人科医会編. 産婦人科診療ガイドライン産科編2023. 日本産科婦人科学会.
綾部琢哉, 板倉敦夫編. 標準産科婦人科学. 医学書院.

<参考図書>

北川真理子, 内山和美編. 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程. 南江堂.

平澤美恵子, 村上睦子監修. 写真でわかる助産技術アドバンス. インターメディカ.

江藤宏美編. 助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア. 日本看護協会出版会.

日本ラクテーション・コンサルタント協会編. 母乳育児支援スタンダード 第3版. 医学書院.

BFHI 2009 翻訳編集委員会訳. UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10カ条」の実践. 医学書院.

伊藤真也, 村島温子編. 薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳 改訂3版. 南山堂.

成績評価の方法・基準

筆記試験 50%

技術試験 30%

助産過程の展開 20%

課題に対するフィードバック

提出された課題に関しては、コメントを付して返却し、授業内で解説する。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

その他についてはメールで受け付ける。(s-nakata@saku.ac.jp)

その他履修上の留意事項等

助産師には、母体と児の両方の視点から判断する能力、これまでの経過を考慮するとともに、先を予測しながら対応する助産実践能力が求められる。これらの能力を身につけるために、周産期における対象は1人ではないこと、継続した経過の中で対象を捉えることを意識する必要がある。

助産過程の展開は「新生児・乳幼児期の診断とケア」と連動させて行う。

*本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

新生児・乳幼児期の診断とケア

更新日：2025/02/06 17:47:11

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090916		科目ナンバリング	M2Z9Z05Z	
担当教員	中田 覚子, 竹内 良美, 田村 正徳									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1				DP2	○		DP3			
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期	－	
	単位	1	授業の方法		演習	曜日/時限	－		必修・選択	必修
	備考									
アクティブラーニングの実施					○					

実務経験のある教員等による授業科目

新生児蘇生法（NCPR）Aコースは、インストラクターの資格を持つ本学教員が担う。

授業概要

新生児期における子宮外生活への適応過程を理解し、新生児の健康状態を診断し、成長発達を促進するケア、異常の発見と異常経過におけるケアを実践できる基礎的能力を養う。また、出生時に胎外呼吸循環が順調に移行できない新生児に対する心肺蘇生法を学ぶ。さらに乳幼児期における成長発達を理解し、成長発達の評価と発達を促すケアについて学修する。

到達目標

1	新生児の子宮外生活適応過程を説明できる。
2	新生児の代表的な異常とその対応・管理について説明できる。
3	新生児期における助産技術とその留意点について説明ができる。
4	新生児期における助産技術を安全に実施できる。
5	模擬事例に対して、助産過程を展開できる。
6	蘇生を必要とする新生児に対する適切な対応について説明・実施できる。
7	乳幼児健診のポイントを列挙することができる。
8	乳幼児の養護と養育者が抱く不安について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	新生児期の生理的变化と助産ケア 1	講義	中田覚子
2	新生児期の生理的变化と助産ケア 2	講義	中田覚子
3	新生児期の生理的变化と助産ケア 3 新生児期の助産過程の視点	講義	中田覚子
4	新生児蘇生法 Aコース 1	講義／演習	田村正徳 中田覚子 竹内良美
5	新生児蘇生法 Aコース 2	講義／演習	田村正徳 中田覚子 竹内良美
6	新生児蘇生法 Aコース 3	講義／演習	田村正徳 中田覚子 竹内良美
7	新生児蘇生法 Aコース 4	講義／演習	田村正徳 中田覚子 竹内良美
8	事例を用いた助産過程の展開 1：生後 1 日目	演習	中田覚子 竹内良美 他
9	事例を用いた助産過程の展開 2：生後 3 日目	演習	中田覚子 竹内良美 他
10	事例を用いた助産過程の展開 3：生後 5 日目	演習	中田覚子 竹内良美 他
11	助産過程の展開に基づく助産ケアの立案	演習	中田覚子 竹内良美 他
12	乳幼児期の成長と発達の評価方法と視点 乳幼児期の発達の観察ポイントと養育者への支援	講義	中田覚子
13	予防接種 事故予防	講義	中田覚子
14	新生児のフィジカルイグザミネーション 1	演習	中田覚子 竹内良美 他

15	新生児のフィジカルイグザミネーション2	演習	中田寛子 竹内良美 他
----	---------------------	----	----------------

授業外学習時間

授業前および授業後にテキスト及び授業資料をよく読み、「周産期医学III」と関連させながら、予習・復習をすること。（各回1～2時間程度）
 助産過程の展開が授業時間内に終わらない場合は時間外に進めること。（各事例に対して3～4時間程度）
 第14～15回の技術演習までに、新生児のフィジカルイグザミネーションの手順書の作成を行うこと。（3～5時間程度）

テキスト・参考書・参考文献

<テキスト>

石井邦子, 廣間武彦編. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期. 医学書院.
 我部山キヨ子, 大石時子編. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション. 医学書院.
 仁志田博司(原著), 高橋尚人, 豊島勝昭編. 新生児学入門. 医学書院.
 細野茂春監修. 日本版救急蘇生法ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト. メジカルビュー社.

<参考図書>

平澤美恵子, 村上睦子監修. 写真でわかる助産技術アドバンス. インターメディカ.

成績評価の方法・基準

筆記試験 60%
 助産過程の展開 20%
 新生児蘇生法に関する事前準備状態（プレテスト）10%
 新生児のフィジカルイグザミネーションの手順書作成 5%
 4か月児の玩具作成企画書 5%

課題に対するフィードバック

提出された課題に関しては、コメントを付して返却し、授業内で解説する。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。
 その他についてはメールで受け付ける。(s-nakata@saku.ac.jp)

その他履修上の留意事項等

妊娠・分娩・産褥経過は新生児・乳幼児の状態に影響を及ぼす。そのため、助産師には、母体と児の両方の視点から判断する能力、これまでの経過を考慮するとともに、先を予測しながら対応する助産実践能力が求められる。これらの能力を身につけるために、周産期における対象は1人ではないこと、継続した経過の中で対象を捉えることを意識する必要がある。
 助産過程の展開は「産褥期の診断とケア」と連動させて行う。
 ＊本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

周産期ハイリスクケア

更新日：2025/02/06 17:49:55

開講年度	2025	学期	前期	授業コード	2025090917	科目ナンバリング	M2Z9Z06Z	
担当教員	中田 覚子, 竹内 良美, 小口 治							
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連								
DP1			DP2	○		DP3		
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科				配当時期	－
	単位	1	授業の方法	講義	曜日/時限	－	必修・選択	必修
	備考							
アクティブラーニングの実施				○				

実務経験のある教員等による授業科目

助産師として十分な臨床経験をもつ教員が実務経験を生かしたシミュレーション演習を行う。
総合周産期母子医療センターまたは地域周産期母子医療センターで、長年、周産期医療に携わっている産科医師および小児科医師が講義を行う。

授業概要

産科的ハイリスク状態にある妊婦・産婦・褥婦について、身体・心理・社会的側面から統合的にアセスメントし、その援助技術を学ぶ。また、周産期における緊急事態時の対応について学修する。

到達目標

1	周産期医療の現状と助産師の業務範囲を理解し、助産師がハイリスクケアを学ぶ意義を説明できる。
2	周産期各期のハイリスク状態に関する知識を養い、正常と異常の境界領域にある状態の観察とアセスメントができる。
3	ハイリスク妊産婦に対して必要な助産ケアを説明できる。
4	医師への照会や搬送のための判断と対応方法を説明できる。
5	周産期各期の急変時の対応方法を説明できる。
6	胎児機能不全出現時および産科的危機的出血時の対応ができる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	オリエンテーション ハイリスク妊娠とは	講義	中田覚子
2	合併症のある妊産婦の医学的管理	講義	小口治
3	周産期における緊急時・搬送時の管理	講義	小口治
4	周産期における異常と助産ケア1：妊娠悪阻、切迫早産、妊娠高血圧症候群、	講義	中田覚子
5	周産期における異常と助産ケア2：妊娠糖尿病、帝王切開	講義	中田覚子
6	総合周産期母子医療センター（長野県立こども病院）見学1	実習	中田覚子 他
7	総合周産期母子医療センター（長野県立こども病院）見学2	実習	中田覚子 他
8	助産師の臨床判断能力 周産期における症候と臨床推論	講義	中田覚子
9	事例を用いた助産過程の展開1：切迫早産	演習	中田覚子 竹内良美 他
10	事例を用いた助産過程の展開2：帝王切開術	演習	中田覚子 竹内良美 他
11	周産期における緊急時の対応 シナリオシミュレーションガイダンス	講義	中田覚子
12	シナリオシミュレーション1：胎児機能不全出現時の対応①	演習	中田覚子 竹内良美 他
13	シナリオシミュレーション1：胎児機能不全出現時の対応②	演習	中田覚子 竹内良美 他
14	シナリオシミュレーション2：産科危機的出血時の対応①	演習	中田覚子 竹内良美 他
15	シナリオシミュレーション2：産科危機的出血時の対応②	演習	中田覚子 竹内良美 他

授業外学習時間

周産期各期の正常経過について復習し理解した上で、「周産期医学Ⅰ」「周産期医学Ⅱ」と関連させながら、予習・復習をすること。（各回1時間程度）
助産過程の展開が授業時間内に終わらない場合は時間外に進めること。（各事例に対して3～4時間程度）
シミュレーション演習に関しては、事前課題・事後課題がある。（各シミュレーション事例に対して30分～1時間程度）

テキスト・参考書・参考文献

<テキスト>

小林康江編. 助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア. 日本看護協会出版会.
日本産婦人科学会, 日本産婦人科医会編. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023. 日本産科婦人科学会.
綾部琢哉, 板倉教夫編. 標準産科婦人科学. 医学書院.

<参考図書>

北川真理子, 内山和美編. 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程. 南江堂.
日本母体救急システム普及協議会. 産婦人科必修母体急変時の初期対応第3版. メディカ出版.
全国周産期医療 (MFICU) 連絡協議会編. MFICUマニュアル. メディカ出版.

成績評価の方法・基準

筆記試験 70%

助産過程の展開 16%

シナリオシミュレーションへの参加態度（振り返り用紙含む）14%

課題に対するフィードバック

提出された課題に関しては、コメントを付して返却し、授業内で解説する。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。その他についてはメールで受け付ける。(s-nakata@saku.ac.jp)

その他履修上の留意事項等

近年の周産期医療の動向によりハイリスク妊産婦は増加しており、助産師には、正常と異常の両方に対応できるための高い助産実践能力が求められる。正常経過であれば、自律的にケアを実践し、正常からの逸脱がある場合には、速やかに医師をはじめとする関連職種との協働が必要となる。これらの対応能力を身につけるために、主体的な学びを期待する。

*本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

ウィメンズヘルスケア

更新日：2025/02/14 09:31:24

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090918		科目ナンバリング	M2Z9Z07R		
担当教員	竹内 良美, 櫻井 綾香, 大久保 早苗, 中田 覚子										
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連											
DP1	○			DP2	○			DP3			
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科						配当時期	—	
	単位	1	授業の方法		講義		曜日/時限	—		必修・選択	必修
	備考										
アクティブラーニングの実施					○						

実務経験のある教員等による授業科目

第9・10・13・14回の講師は、病院に長年勤務している管理栄養士であり、その実務経験をもとに講義する。
第11・12回の講師はアロマセラピストの資格を有し、開業している者であり、その実務経験をもとに講義・演習を行う。
第15回の講師は生殖看護認定看護師の養成に長年携わっている助産師であり、その実務経験をもとに講義する。

授業概要

生涯を通じて女性が直面する身体・心理・社会的健康課題を理解し、女性を全人的に捉え、その支援を実践するための基礎的能力を養い、助産師の役割を考察する。

到達目標

1	ウィメンズヘルスケアの概念を説明できる。
2	女性の健康と関連要因について説明できる。
3	女性のライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と健康課題を説明できる。
4	女性を取り巻く社会の問題が健康問題とどう関連するのか説明できる。
5	性科学の概念を理解し、性の健康について説明できる。
6	リプロダクティブヘルス/ライツにおける家族計画の意義を説明できる。
7	各種受胎調節の理論と具体的な使用方法を理解し、受胎調節指導を実施できる。
8	母子の栄養および女性の栄養について理解し、説明できる。
9	プレコンセプションケアの概念について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	ウィメンズヘルスの概念、ライフサイクルにおける健康課題	講義	竹内良美
2	ウィメンズヘルスと社会的な課題	講義	竹内良美
3	ドメスティック・バイオレンス	講義	櫻井綾香
4	性科学・性の多様性、性感染症	講義	櫻井綾香
5	家族計画の意義と背景、各種受胎調節の理論と方法	講義	竹内良美
6	対象に合わせた受胎調節指導の計画立案	演習	竹内良美
7	受胎調節指導の演習	演習	竹内良美 中田覚子 他
8	受胎調節指導の演習	演習	竹内良美 中田覚子 他
9	母子の栄養①	講義	大久保早苗
10	母子の栄養②	講義	大久保早苗
11	アロマを活用したウィメンズヘルスケア①	講義	特別招聘講師
12	アロマを活用したウィメンズヘルスケア②	演習	特別招聘講師
13	女性の栄養①	講義	大久保早苗
14	女性の栄養②	講義	大久保早苗
15	プレコンセプションケアについて ＊「不妊症と不妊ケア」の講義と合わせて同日に開催する。	講義	特別招聘講師

授業外学習時間

授業範囲のテキストを確認し、専門用語や法制度などの基礎知識を理解してから臨む。（60分）
授業終了後には講義資料などを復習し、学んだ知識の整理を行う。（60分）
受胎調節指導案の作成は、授業時間内に終わらない場合、授業時間外で取り組む必要がある。（2～3時間）

テキスト・参考書・参考文献

〈テキスト〉

堀内成子,片岡弥恵子編.助産学講座5,助産診断技術学Ⅰ.医学書院.
吉沢豊予子編. 助産師基礎教育テキスト第2巻ウィメンズヘルスケア.日本看護協会出版会.
我部山キヨ子編.助産学講座3,母子の健康科学.医学書院.

〈参考図書〉

家族計画指導の実際.医学書院.
受胎調節指導用テキスト.日本家族計画協会.
医療現場におけるDV被害者への対応ハンドブック.明石書店.
女性学入門,ジェンダーで社会と人生を考える.ミネルヴァ書房.
ジェンダーで学ぶ生活経済論.ミネルヴァ書房.
EBMの手法による周産期ドメスティック・バイオレンスの支援ガイドライン.金原出版.
アロマテラピー検定 公式テキスト 1級・2級,2020年6月改訂.世界文化社.
アロマテラピー精油事典.成美堂出版.
プレコンセプションケア.メディカルビュー.

成績評価の方法・基準

筆記試験 60%、受胎調節指導案の内容と演習の取り組み30%、事前課題・事後課題レポート10%

課題に対するフィードバック

レポートはコメントを入れて返却する。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付け、その他についてはメールで受け付ける。(y-takeuchi@saku.ac.jp)

その他履修上の留意事項等

「助産師のコア・コンピテンシー2021」の一つとして「ウィメンズケア能力」が位置づけられ、助産師には、あらゆる年代、さまざまな立場の女性を支援していくことが求められている。基礎的な知識を身につけるとともに、世の中の動きに目を向けて、考え、行動する力を身に付けていく必要があることを理解して学んでほしい。

*本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

健康教育方法論

更新日：2025/02/14 11:04:27

開講年度	2025		学期	前期	授業コード	2025090919		科目ナンバリング	M2Z9Z08R		
担当教員	竹内 良美, 湯本 敦子, 中田 覚子										
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連											
DP1		○		DP2		○		DP3			
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科						配当時期	－	
	単位	1	授業の方法		演習		曜日/時限	－		必修・選択	必修
	備考										
アクティブラーニングの実施					○						

実務経験のある教員等による授業科目

授業概要

助産ケアにおけるヘルスプロモーション活動として、健康相談及び教育活動に必要な理論や方法について理解し、対象のニーズに基づく教育プログラムの計画、立案、実施、評価を実践できる基礎的能力を養い、健康教育における助産師の役割を考察する。

到達目標

1	健康教育の理論と方法を説明できる。
2	高校生を対象とした健康教育の計画立案・実施・評価ができる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	健康教育の理論、健康教育の方法論	講義	竹内良美
2	健康教育指導案① ニーズアセスメント	講義 グループワーク(GW)	竹内良美
3	健康教育指導案② ニーズアセスメント	GW	竹内良美
4	健康教育指導案③ 指導計画の立案	講義 GW	竹内良美
5	健康教育指導案④ 全体設計	GW	竹内良美
6	健康教育指導案⑤ 教材作成	GW	竹内良美
7	健康教育指導案⑥ 教材作成	GW	竹内良美
8	健康教育指導案⑦ 教材作成	GW	竹内良美
9	第1回出前講座リハーサル①	プレゼンテーション	竹内良美 中田覚子 他
10	第1回出前講座リハーサル②	プレゼンテーション	竹内良美 中田覚子 他
11	第2回出前講座リハーサル①	プレゼンテーション	竹内良美 中田覚子 他
12	第2回出前講座リハーサル②	プレゼンテーション	竹内良美 中田覚子 他
13	出前講座（地域の高校）	プレゼンテーション	竹内良美 中田覚子 他
14	出前講座（地域の高校）	プレゼンテーション	竹内良美 中田覚子 他
15	出前講座の評価・まとめ	GW	竹内良美 中田覚子 他

授業外学習時間

これまでに自身が受けてきた思春期教育、性教育、命の教育等を振り返り、必要或いは不足していると思われる教育内容を考え、実際の指導に活かす準備を行う。(60分)
授業時間内でグループワークを進めていくが、不足の場合は、空き時間も活用し全員で協力して計画的に出前授業の準備を進めていく。

テキスト・参考書・参考文献

〈テキスト〉
堀内成子,片岡弥恵子.助産学講座5,助産診断・技術学Ⅰ.医学書院.
我部山キヨ子編.助産学講座9,地域母子保健・国際母子保健.医学書院.

〈参考図書〉
ユネスコ編.改訂版,国際セクシュアリティ教育ガイダンス.明石書店.
日本助産師会保健指導部会委員会編集・監修.助産師による思春期の健康教育.日本助産師会出版.
林雄亮編著.青少年の性行動はどう変わってきたか,全国調査に見る40年間.ミネルヴァ書房.

成績評価の方法・基準

健康教育実践への取り組みの態度 40%、健康教育計画書 20%、最終レポート 40%

課題に対するフィードバック

課題レポートは確認後にコメントを付与し、返却する。

オフィスアワー

1. 毎回、授業後に質問を受け付ける。
2. 質問、相談のメールには随時対応する。対面での対応を希望する場合は事前にメールで連絡をする。
アドレス：y-takeuchi@saku.ac.jp

その他履修上の留意事項等

実際に地域に出て健康教育を行う。健康教育の基本的プロセスと方法を学ぶための体験学習である。助産師がこのような教育を行う意義は何かも含め、幅広い学びにつなげられることを期待する。

*本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

地域母子保健

更新日：2025/02/14 09:45:36

開講年度	2025		学期	通年	授業コード	2025090920		科目ナンバリング	M2Z9Z09Z	
担当教員	竹内 良美, 小林 恵子									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1	○			DP2	○		DP3	○		
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期	－	
	単位	2	授業の方法		講義	曜日/時限	－	必修・選択		必修
	備考									
アクティブラーニングの実施					○					

実務経験のある教員等による授業科目

地域で長年活動している保健師や助産師、社会保健福祉士などが、その実務経験をもとに、一部の講義や演習を担当する。

授業概要

我が国の母子保健行政と施策、現代社会の地域母子保健の現状と課題を理解し、多職種と連携しながら包括的な支援体制を構築し、在日外国人を含む、地域における子育て世代のニーズに対応した母子保健サービスの提供を実践できる基礎的能力を養う。地域における妊娠期・子育て期の健康教育及び健診の場での学外授業（妊娠期パパママ教室）を含む。

到達目標

1	地域母子保健活動の目的・意義を説明できる。
2	地域母子保健体系を説明できる。
3	母子保健指標の動向を説明できる。
4	個人・家族・地域の育児力を高めるための地域母子保健の支援方法を説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	地域母子保健の目的と意義、母子の健康に関わる因子	講義	竹内良美
2	地域における母子保健事業の実際 佐久市の母子保健事業の見学実習①	体験学習	竹内良美
3	地域における母子保健事業の実際 佐久市の母子保健事業の見学実習②	体験学習	竹内良美
4	地域の特性と地域母子保健	プレゼンテーション	竹内良美
5	母子保健の現状と動向	講義	竹内良美
6	地域母子保健行政の体系	講義	竹内良美
7	地域母子保健活動の基盤と展開	講義	竹内良美
8	佐久市における母子保健行政・母子保健施策	講義	特別招聘講師 (佐久市の保健師)
9	国際母子保健	講義	小林恵子
10	地域母子保健活動の実際（子ども虐待防止への取り組み①）	講義	特別招聘講師
11	地域母子保健活動の実際（子ども虐待防止への取り組み②）	グループワーク	特別招聘講師
12	地域母子保健活動の実際（子育て支援施設や支援事業①）	講義	特別招聘講師
13	地域母子保健活動の実際（子育て支援施設や支援事業②）	グループワーク	特別招聘講師
14	災害時の地域母子保健活動の実際	講義	特別招聘講師
15	まとめ	講義	竹内良美

授業外学習時間

テキストを読む、事前の学習課題に取り組む。（1時間）
講義や見学、演習後に自分の考えをまとめ、今後の課題を考える。（1時間）

テキスト・参考書・参考文献

〈テキスト〉
我部山キヨ子編.助産学講座9地域母子保健・国際母子保健.医学書院.

〈参考書〉
母子保健の主なる統計－令和7年刊行－.母子衛生研究会.
国民衛生の動向.厚生労働統計協会.

成績評価の方法・基準

筆記試験 50%
見学レポート 20%

課題学習レポート	20%
事後アンケート	10%

課題に対するフィードバック

レポートにはコメントを入れて返却する。

オフィスアワー

終了時、教室で質問を受ける。

その他履修上の留意事項等

母子とその家族の生活の拠点は地域である。妊娠期から分娩期、産褥期と継続して考える視点を養い、地域とのかかわりに繋げていく力を養ってほしいと考える。

*本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

助産管理

更新日：2025/02/12 12:48:17

開講年度	2025		学期	通年	授業コード	2025090921		科目ナンバリング	M2Z9Z10Z		
担当教員	湯本 敦子, 中嶋 智子, 保谷 ハルエ, 黒澤 かおり, 廣間 武彦										
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連											
DP1	○			DP2	○			DP3	○		
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科						配当時期	－	
	単位	2	授業の方法		講義		曜日/時限	－		必修・選択	必修
	備考										
アクティブラーニングの実施					×						

実務経験のある教員等による授業科目

病院・助産所において管理者としての実務経験をもつ医師・助産師・看護師が講義を担当する。
災害に関しては、防災士の資格をもつ看護師が講義を担当する。

授業概要

助産管理に関連する法律と助産師の義務、助産管理の基本概念、周産期医療システム、病院・助産所における助産業務管理、及び助産における医療安全とリスクマネジメント、災害への備えと災害時の対応について学修する。

到達目標

1	助産管理の基礎的概念について説明できる。
2	助産の行われる場（病院・助産所）における助産管理について説明できる。
3	助産業務における医療安全と危機管理について説明できる。
4	周産期医療システムの運用と地域連携について説明できる。
5	母子保健における災害対策・災害支援について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	助産ケアに関連する法律と義務・責任／助産業務ガイドライン	講義	湯本敦子
2	助産管理の基本と病院における助産業務管理 1	講義（Web）	太田まさえ
3	助産管理の基本と病院における助産業務管理 2	講義（Web）	太田まさえ
4	産科病棟・産科外来における助産管理	講義	深町京子
5	助産所における助産サービスと管理 1	講義	北澤倫子
6	周産期医療システムと連携（長野県立こども病院） 1	学外授業	廣間武彦
7	周産期医療システムと連携（長野県立こども病院） 2	学外授業	第3病棟師長 新生児科師長
8	助産所における助産サービスと管理 2-1	講義	保谷 ハルエ
9	助産所における助産サービスと管理 2-2	講義	保谷 ハルエ
10	助産所における助産サービスと管理 3-1	講義	黒澤かおり
11	助産所における助産サービスと管理 3-2	講義	黒澤かおり
12	災害時福祉避難所の機能と運営	講義	中嶋智子
13	災害対策・母子支援 避難所ゲームHUG 1	演習	中嶋智子
14	災害対策・母子支援 避難所ゲームHUG 2	演習	中嶋智子
15	組織における看護管理	講義	非常勤講師

授業外学習時間

助産管理は国家試験問題の頻出問題に関連する内容である。自分なりの学習方法でまとめ、よく復習し、覚えること。
各回の予習・復習をしっかりと行うこと。
レポート課題は授業開始後に提示する。

テキスト・参考書・参考文献

＜テキスト＞

我部山キヨ子. 助産学講座10 助産管理. 医学書院.

福井トシ子, 井本寛子. 助産師業務要覧 第4版 I 基礎編. 日本看護協会出版会.

福井トシ子, 井本寛子. 助産師業務要覧 第4版 III アドバンス編. 日本看護協会出版会.

＜参考文献＞

福井トシ子, 井本寛子. 助産師業務要覧 第4版 II 実践編. 日本看護協会出版会.

成田伸. 助産師基礎教育テキスト 第3巻 助産サービス管理. 日本看護協会出版会.

＊その他、適宜授業中に示す

成績評価の方法・基準

筆記試験：湯本・太田・黒澤・保谷担当部分（中間試験として、前期定期試験期間に実施する）

授業レポート：長野県立こども病院における学外授業 および 災害に関する授業において課題レポートを課す。

課題に対するフィードバック

筆記試験に関しては定期試験後にフィードバックを行う。

レポートに関しては、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

授業後に質問を受け付ける。

その他履修上の留意事項等

助産師の活躍の場の広がりを理解し、さまざまな場での助産師の活動とその役割や意義について学修してください。

また助産師の大先輩たちから、様々な助産師像を学んでください。

*本科目は、助産学実習Ⅰ～Ⅳの先修要件科目である。

助産学実習Ⅰ（妊娠期～育児期・継続ケア）

更新日：2025/01/31 12:20:38

開講年度	2025		学期	後期	授業コード	2025090922		科目ナンバリング	M2Z9Z11R	
担当教員	中田 覚子, 竹内 良美									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1					DP2	○		DP3		
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期	－	
	単位	2	授業の方法		実習	曜日/時限	－		必修・選択	必修
	備考									
アクティブラーニングの実施						×				

実務経験のある教員等による授業科目

担当教員全員が助産師として周産期医療における十分な臨床経験を持っており、その実務経験を生かした臨地実習指導を行う。

授業概要

継続事例として妊娠期から産褥1か月までの期間を継続して受け持ち、信頼関係を築きながら対象の経過とニーズに応じた個別的な助産過程を展開する。さらに、可能な限り、産後4か月前後に電話訪問等による情報収集とアセスメントを行う。

到達目標

1	継続事例に対して行われる妊婦健康診査の目的や意義を理解し、一部実施できる。
2	継続事例の妊娠期から産後1か月・生後1か月(可能であれば産褥4か月・生後4か月)までの助産過程を展開できる。
3	継続事例およびその家族に対して必要な健康教育を理解し、実施できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	<実習方法> 妊娠32週以降の正常経過をたどっている妊婦を、妊娠期から産褥1か月まで継続して受け持ち、助産ケアを実施する。可能であれば、産褥4か月前後に子育てサロンに招く。 <実習期間> 2025年9月1日～2025年11月28日（うち90時間程度が本実習に該当する） <実習施設> 佐久市立国保浅間総合病院 JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 JA長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター 医療法人慈恵会吉田病院 ※詳細は実習要項参照	実習	中田覚子 竹内良美 他

授業外学習時間

臨地実習に向け、事前に前期履修科目の知識・技術の確認が必要となる。特に、「妊娠期・分娩期・産褥期・新生児・乳幼児期の診断とケア」で学修したすべての講義内容・演習内容を確実に習得して、臨地実習に臨むことを期待する。
土日祝日を含む実習を行う。実習時間の調整は各施設の実習担当教員と行うこと。

テキスト・参考書・参考文献

前期開講科目で使用したすべてのテキスト・参考書・講義資料

成績評価の方法・基準

実習要項に記載する方法・基準に基づき評価する。

課題に対するフィードバック

提出された実習記録に対しては、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

各施設の実習担当教員と密に連絡を取り合い、実習を進めること。
(連絡方法は実習オリエンテーション時に説明予定)

その他履修上の留意事項等

主体的に前期から学修の積み重ねていくことを期待する。
自身の健康管理に十分留意するとともに、自律した行動がとれるよう、入学時より、自己管理・自己コントロールを心掛ける必要がある。
実習中は、看護師のライセンスをもつ者としての責任、医療チームの一員としての責任をもち、臨床指導者や教員に対し、必要な連絡・報告・相談を確実に行うこと。
＊本科目を履修するためには、前期開講科目のうち必修科目の単位をすべて修得することが必須条件である。

助産学実習Ⅱ（分娩期ケア）

更新日：2025/01/31 13:47:06

開講年度	2025		学期	後期	授業コード	2025090923		科目ナンバリング*	M2Z9Z12R	
担当教員	中田 覚子, 竹内 良美									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1					DP2	○		DP3		
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期	－	
	単位	8	授業の方法		実習	曜日/時限	－	必修・選択		必修
	備考									
アクティブラーニングの実施					○					

実務経験のある教員等による授業科目

担当教員全員が助産師として周産期医療における十分な臨床経験を持っており、その実務経験を生かした臨地実習指導を行う。

授業概要

分娩第1期から分娩後2時間までを受け持ち、産婦・胎児、家族に対する助産過程の展開及び分娩介助を行う。原則として、正常産10例程度（継続事例を含む）を目安とする。

到達目標

1	分娩期の助産過程を展開できる（分娩介助10例）
2	母子保健医療チームにおける助産師の役割および多職種との連携・調整について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	<実習方法> ローリスクの分娩介助10例を通じて、分娩第1期から分娩第4期までの分娩介助を含む助産過程の展開を行う。 <実習期間> 2025年9月1日～2025年11月28日（うち360時間程度が本実習に該当する） <実習施設> 佐久市立国保浅間総合病院 JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 JA長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター 医療法人慈恵会吉田病院 他 ※詳細は実習要項参照	実習	中田覚子 竹内良美 他

授業外学習時間

臨地実習に向け、事前に前期履修科目の知識・技術の確認が必要となる。特に、「妊娠期・分娩期・産褥期・新生児・乳幼児期の診断とケア」で学修したすべての講義内容・演習内容を確実に習得して、臨地実習に臨むことを期待する。
土日祝日・夜間を含む実習を行う。実習時間の調整は各施設の実習担当教員と行うこと。

テキスト・参考書・参考文献

前期開講科目で使用したすべてのテキスト・参考書・講義資料

成績評価の方法・基準

実習要項に記載する方法・基準に基づき評価する。

課題に対するフィードバック

提出された実習記録に対しては、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

各施設の実習担当教員と密に連絡を取り合い、実習を進めること。
（連絡方法は実習オリエンテーション時に説明予定）

その他履修上の留意事項等

主体的に前期から学修の積み重ねていくことを期待する。
分娩は、決められた実習時間内にあるものではない。昼夜問わず分娩経過に合わせ、産婦および胎児のケアを行う。自身の健康管理に十分留意するとともに、自律した行動がとれるよう、入学時より、自己管理・自己コントロールを心掛ける必要がある。
実習中は、看護師のライセンスをもつ者としての責任、医療チームの一員としての責任をもち、臨床指導者や教員に対し、必要な連絡・報告・相談を確実に行うこと。
*本科目を履修するためには、前期開講科目のうち必修科目の単位をすべて修得することが必須条件である。

助産学実習Ⅲ（ハイリスク母子のケア）

更新日：2025/01/31 12:21:03

開講年度	2025		学期	後期	授業コード	2025090924		科目ナンバリング	M2Z9Z13Z					
担当教員	中田 覚子, 竹内 良美													
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連														
DP1					DP2		○		DP3					
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科						配当時期		－			
	単位	1	授業の方法		実習		曜日/時限		－		必修・選択		必修	
	備考													
アクティブラーニングの実施							×							

実務経験のある教員等による授業科目

担当教員全員が助産師として周産期医療における十分な臨床経験を持っており、その実務経験を生かした臨地実習指導を行う。

授業概要

ハイリスク状態にある妊産婦・胎児あるいは褥婦・新生児のいずれかを受け持ち、健康状態のアセスメントに基づき、指導助言を受けながら、その対象に適切なケアを実践する。他職種とのチーム連携によるハイリスク事例や緊急時の対応を学び、考察する。

到達目標

1	ハイリスク状態にある妊産婦・胎児あるいは褥婦・新生児について、医学的、身体的、心理的、社会的、環境的状态を把握し、適切に助産過程を展開できる。
---	---

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	<実習方法> ハイリスク状態にある妊産婦・胎児あるいは褥婦・新生児を1例受け持ち、助産過程を展開する。 <実習期間> 2025年9月1日～2025年11月28日（うち45時間程度が本実習に該当する） <実習施設> 佐久市立国保浅間総合病院 JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 JA長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター 医療法人慈恵会吉田病院 他 ※詳細は実習要項参照	実習	中田覚子 竹内良美 他

授業外学習時間

臨地実習に向け、事前に前期履修科目の知識・技術の確認が必要となる。特に、「妊娠期・分娩期・産褥期・新生児・乳幼児期の診断とケア」で学修したすべての講義内容・演習内容を確実に習得して、臨地実習に臨むことを期待する。
土日祝日を含む実習を行う。実習時間の調整は各施設の実習担当教員と行うこと。

テキスト・参考書・参考文献

前期開講科目で使用したすべてのテキスト・参考書・講義資料

成績評価の方法・基準

実習要項に記載する方法・基準に基づき評価する。

課題に対するフィードバック

提出された実習記録に対しては、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

各施設の実習担当教員と密に連絡を取り合い、実習を進めること。
（連絡方法は実習オリエンテーション時に説明予定）

その他履修上の留意事項等

主体的に前期から学修の積み重ねていくことを期待する。
自身の健康管理に十分留意するとともに、自律した行動がとれるよう、入学時より、自己管理・自己コントロールを心掛ける必要がある。
実習中は、看護師のライセンスをもつ者としての責任、医療チームの一員としての責任をもち、臨床指導者や教員に対し、必要な連絡・報告・相談を確実に行うこと。
＊本科目を履修するためには、前期開講科目のうち必修科目の単位をすべて修得することが必須条件である。

助産学実習Ⅳ（地域における母子保健活動）

更新日：2025/02/27 11:55:38

開講年度	2025		学期	後期	授業コード	2025090925		科目ナンバリング	M2Z9Z14Z		
担当教員	竹内 良美, 中田 覚子										
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連											
DP1					DP2	○		DP3	○		
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科						配当時期	－	
	単位	1	授業の方法		実習		曜日/時限	－		必修・選択	必修
	備考										
アクティブラーニングの実施					○						

実務経験のある教員等による授業科目

担当教員はすべて、看護師・助産師として周産期医療における十分な臨床経験を持っており、その実務経験を生かした臨地実習指導を行う。

授業概要

地域における助産・母子保健活動の実践を学ぶ。また、助産所における管理を学ぶ。地域における助産師の役割や開業助産師をモデルとする助産師の自律性と専門性を考察する。

到達目標

1	1. 助産所における助産業務管理の実践を説明できる。
2	2. 助産所の活動内容について、地域における機能と役割を考察できる。
3	3. 母子保健活動分野における助産師の役割および多職種との連携・調整について考察できる。
4	4. 育児期における、産後・生後4か月程度の母子のアセスメントができる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	〈助産所実習〉 実習方法：助産所における助産業務の実践を、実習を通じて確認する。 実習期間：2025年12月1日～12月5日・12月8日～12月12日 この期間中の2日間 実習施設：東御市立助産所とうみ（東御市） 助産所ほやほや（長野市） 〈産後・生後4か月の母子についての実習〉 実習方法・実習期間は別途示す ※詳細は実習要項参照 ※助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修するためには、 前期開講科目のうち必修科目の単位をすべて習得することが必須条件である。	実習	中田覚子 竹内良美 他

授業外学習時間

実習する助産所に関する事前学習、レポート課題のための準備等が必要となる。（60分）
産後・生後4か月の母子についての実習の準備については、別途示す。

テキスト・参考書・参考文献

前期開講科目で使用したすべてのテキスト・参考書・講義資料

成績評価の方法・基準

実習要項に記載する方法・基準による

課題に対するフィードバック

「毎日の記録」は臨床指導者からコメントをいただき、返却する。

オフィスアワー

必要時、メール連絡ください。y-takeuchi@saku.ac.jp

その他履修上の留意事項等

助産学実習Ⅳでは、助産所実習と産後・生後4か月の母子の実習を行う。助産所実習では特に助産管理に焦点をあて、助産所における助産管理を学ぶ。組織の運営や地域社会の中での助産師の在り方、役割や多職種との連携・協働について考察していく。また、産後・生後4か月の母子の実習を通して、妊娠期～分娩期～産褥期・育児期の継続した支援について考察していく。

助産学研究

更新日：2025/02/14 10:20:59

開講年度	2025		学期	通年	授業コード	2025090931		科目ナンバリング	M2Z9Z15Z		
担当教員	中田 覚子, 湯本 敦子, 竹内 良美										
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連											
DP1	○			DP2	○			DP3	○		
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科						配当時期	一	
	単位	1	授業の方法		演習		曜日/時限	一		必修・選択	必修
	備考										
アクティブラーニングの実施					○						

実務経験のある教員等による授業科目

授業概要

助産師が研究を行うことの必要性和意義を理解し、事例研究を通して研究の一連のプロセスとその実際及び研究倫理について学修する。

到達目標

1	文献のクリティークや学会参加を通じて、根拠に基づいた助産実践のあり方について討議することができる。
2	実習での継続事例や受け持ち事例への助産ケアを研究的に系統立てて記述することができる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	文献検索の方法 1	講義／演習	図書館司書（佐藤）
2	文献検索の方法 2	講義／演習	図書館司書（佐藤）
3	助産学研究の必要性 事例研究レポートの作成方法	講義	中田覚子
4	文献抄読①：課題文献のクリティーク	講義	中田覚子
5	文献抄読②：関心事項に関する文献のクリティーク①	プレゼンテーション	中田覚子 竹内良美
6	文献抄読②：関心事項に関する文献のクリティーク②	プレゼンテーション	中田覚子 竹内良美
7	長野県母子衛生学会学術講演会への参加	講義 （オンデマンド参加）	中田覚子
8	研究計画発表会 1	プレゼンテーション	中田覚子 竹内良美 湯本敦子 他
9	研究計画発表会 2	プレゼンテーション	中田覚子 竹内良美 湯本敦子 他
10	事例研究論文作成 1（個別指導）	演習	中田覚子 竹内良美
11	事例研究論文作成 2（個別指導）	演習	中田覚子 竹内良美
12	事例研究論文作成 3（個別指導）	演習	中田覚子 竹内良美
13	事例研究論文作成 4（個別指導）	演習	中田覚子 竹内良美
14	研究発表：事例研究のプレゼンテーション 1	プレゼンテーション	中田覚子 竹内良美 湯本敦子 他
15	研究発表：事例研究のプレゼンテーション 2	プレゼンテーション	中田覚子 竹内良美 湯本敦子 他

授業外学習時間

- <前期>
- ・提示された課題文献および自身の関心のあるテーマで文献を探し、熟読して概略をまとめる。（1文献あたり2時間程度）
- <後期>
- ・論文作成過程において課題を提示することがある。（必要時）

テキスト・参考書・参考文献

指定なし

成績評価の方法・基準

文献カードの作成 8%

プレゼンテーション①（文献抄読）4%

プレゼンテーション②（研究計画）4%

レポート（学会参加）4%

事例研究論文の執筆および発表 80%

課題に対するフィードバック

提出された課題に対しては、その都度、コメントをフィードバックする。

オフィスアワー

随時、メールで質問を受け付ける。

s-nakata@saku.ac.jp

論文作成に関しては、各担当教員と面接時間を調整して進めること。

その他履修上の留意事項等

自らが実施した助産ケアを客観的に整理し評価することは、根拠ある実践をするうえでとても意義がある。また、文献を活用して思考すること、ディスカッションを通して思考することにより、助産師としての視野を広げていけることを期待する。

事例研究の執筆にあたっては、自ら担当教員にアポイントメントをとり、主体的かつ計画的に取り組むことが望ましい。

*本科目で作成する事例研究論文は助産学実習で受け持ったいずれかの事例についてまとめるため、助産学実習Ⅰ～Ⅳを履修し、単位修得見込みでなければ評価

することができない。

不妊症と不妊ケア

更新日：2025/03/28 11:16:10

開講年度	2025		学期	通年	授業コード	2025090932		科目ナンバリング	M3Z9Z01R	
担当教員	竹内 良美, 木村 薫, 宮澤 香代子									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1		○		DP2				DP3		
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期		－
	単位	1	授業の方法		講義	曜日/時限	－		必修・選択	選択
	備考									
アクティブラーニングの実施					×					

実務経験のある教員等による授業科目

第1・2回は不妊治療の専門医として総合病院に長年勤務し、その実務経験をもとに不妊治療について講義する。
第6回は生殖看護認定看護師（不妊症看護認定看護師）養成に長年携わっている助産師であり、その実務経験をもとに講義する。
第7・8回は不妊症看護認定看護師として総合病院に長年勤務している助産師であり、その実務経験をもとに不妊症の看護について講義する。

授業概要

不妊の定義・検査・治療、生殖補助医療に関する基礎的な医学的知識、不妊症の女性及びカップルの健康課題について理解し、不妊カウンセリングを含む不妊症に悩む人々へのケアを実践できる基礎的能力を養う。

到達目標

1	不妊症の実態と原因・検査、治療について説明できる。
2	不妊カップルの心理・社会的反応を知り、不妊カウンセリングの内容と特性について説明できる。
3	不妊カップルが適切な検査や治療を受けるための支援について説明できる。
4	生殖補助医療に関する課題について、自己の考えを持ち、考察できる。
5	生殖看護認定看護師（不妊症看護認定看護師）の業務や役割・資格等について説明できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	生殖補助医療の基礎知識	講義	木村薫
2	生殖補助医療の実際と出生前診断について	講義	木村薫
3	生殖補助医療に関する動向と課題について	講義	竹内良美
4	生殖看護の実際	講義	竹内良美
5	不妊当事者からの学びと社会的支援（自助グループ）	講義	特別招聘講師
6	不妊治療とプレコンセプションケア ＊「ウィメンズヘルスケア」と連動し同日に開催する。	講義	特別招聘講師
7	不妊治療中の対象の心理・悩み・社会的反応・相談の実際	講義	宮澤香代子
8	不妊治療と治療を受ける対象への不妊症看護認定看護師の機能・役割と支援	講義	宮澤香代子

授業外学習時間

授業項目を教科書で読み、ノートに整理する。講義終了時に再度理解度を確認する。 約45分

テキスト・参考書・参考文献

〈テキスト〉
我部山キヨ子,武谷雄二編.助産学講座2,基礎助産学[2]母子の基礎科学.医学書院.
吉沢豊予子編.助産師基礎教育テキスト,第2巻ウィメンズヘルスケア.日本看護協会出版会.
〈参考図書〉
日本生殖看護学会編.生殖看護ガイドブック.医学書院.
荒田尚子,三戸麻子編.プレコンセプションケア.メディカルビュー.
藤井知行総監修.不妊症・不育症ガイド.時事通信社.
吉村泰典監修.生殖医療ポケットマニュアル第2版.医学書院.
信濃毎日新聞取材班(2015).不妊治療と出生前診断－温かな手で－.講談社.

成績評価の方法・基準

・定期試験（筆記）	50%
・事前課題レポート・事後課題レポート	10%
・最終レポート	40%

課題に対するフィードバック

レポートはコメントを入れて返却する。

オフィスアワー

- ・授業終了後、教室で質問を受ける。
- ・随時、メール（y-takeuchi@saku.ac.jp）で質問を受ける。

その他履修上の留意事項等

女性の結婚・出産年齢が高くなっている昨今、不妊治療を考慮するカップルは増加傾向にある。そのような対象者に寄り添い、求めている情報を提供できることは助産師にとって重要な役割になる。自らの価値観に縛られることなく最新の知識を客観的に身につけていく必要がある。

家族・子ども保健福祉支援論

更新日：2025/02/27 12:00:18

開講年度	2025		学期	通年	授業コード	2025090933		科目ナンバリング	M3Z9Z02Z	
担当教員	竹内 良美, 尾島 万里									
学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連										
DP1		○		DP2				DP3		○
配当	学部/学科		専攻科 専攻科 助産学専攻科					配当時期		－
	単位	1	授業の方法		講義	曜日/時限	－	必修・選択		選択
	備考									
アクティブラーニングの実施					○					

実務経験のある教員等による授業科目

第1～4回は認定心理士・精神保健福祉士として、福祉・医療や地域での経験をもとに保健・福祉支援について講義する。
第5・6回は、東信地域で、社会的ハイリスク母子への支援を行っている施設から、社会保健福祉士・精神保健福祉士・保育士などの経験をもとに支援の実践について講義する。

授業概要

現代社会において様々な事情から、社会的、精神的、経済的にも不安定になりやすい状況におかれる社会的ハイリスクの女性、子ども、家族が抱える課題とその支援について、保健・福祉協働支援の視点から学修する。

到達目標

1	母子福祉に関連する法律・制度および関係機関の役割について説明できる。
2	現代社会における家族関係と子育て家族の課題について説明できる。
3	周産期～育児期において福祉支援を必要とする母子・家族について説明できる。
4	保健・医療・福祉連携による支援を必要とする母子・家族への支援の在り方について考察できる。

授業計画

	授業内容	授業形態	授業担当者
1	母子保健福祉に関連する法律・制度・関係機関	講義	尾島万理
2	子ども家庭福祉政策、保育政策	講義	尾島万理
3	地域における子育て家族の課題	講義	尾島万理
4	精神疾患を持つ母親の子育て家族の課題	講義	尾島万理
5	地域における母子保健医療と福祉との協働	講義	特別招聘講師
6	子どもの権利と社会的養育	講義	特別招聘講師
7	福祉支援を必要とする母子の理解と支援の実践1（当事者との座談会）	講義	特別招聘講師、竹内良美
8	福祉支援を必要とする母子の理解と支援の実践2（当事者との座談会）	講義	特別招聘講師、竹内良美

授業外学習時間

さまざまな背景を抱える家族への関心を持ち、新聞、雑誌、書籍なども読み、親子・家族関係の発達を支える現場での実践可能な支援について考える努力をすること。

テキスト・参考書・参考文献

〈テキスト〉
我部山キヨ子,菅原ますみ編,助産学講座 4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学,医学書院.
小林康江編,助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア,日本看護協会出版会.

成績評価の方法・基準

レポート 70％、 事後アンケート 20％、 授業への参加態度 10％

課題に対するフィードバック

レポートはコメントを入れて返却する。

オフィスアワー

授業終了後に質問を受け付ける。
その他研究室、在室時の時間を調整する。事前に連絡をとること。

その他履修上の留意事項等

家族の始まりにおいて現代社会の中で人々が抱える母子・父子・親子・家族における課題や問題事項に関心を持ち、自分なりの考えを深める学びを心掛けてください。